

陶芸・やきもの

陶芸とはやきものを作る技術の事で、日本では古くは縄文時代に土器が作られた所から歴史が始まりました。そして日本各地の地質などの特徴を活かし、それぞれの地で素晴らしい技術が生まれ受け継がれてきました。世界に二つとない作品は自分自身で作り出す事も可能です。陶芸の世界に足を踏み入れたい方も自身のスキルアップを目指している方も参考になりそうな資料をまとめてみましたので、手に取っていただければ幸いです。

1 陶芸について学ぼう

『やきものの見方・楽しみ方』 751.1

北浦 牧夫／著 日本文芸社／発行 2008年12月

日本で特に有名なやきものの産地を約20種類とりあげ、その特徴や歴史、作者、作品の見どころなどが作品鑑賞を始めてみたい人にもわかりやすく解説されています。

『わかりやすく、くわしいやきもの入門』 751.1

仁木 正格／著 主婦の友社／発行 2018年12月

やきものができるまでの工程ややきものの種類と見方、全国68窯の特徴や歴史などを詳しく丁寧に解説している一冊です。

『うつわの教科書』 751.1

榎出版社／発行 2017年1月

長い歴史を持つ伝統的なものから現代の作家のものまで、素敵な写真と共に紹介されています。日々を豊かにする道具として愛着が湧いてくるような一冊です。

『日本やきもの史 増補新装』 751.1

矢部 良明／監修 美術出版社／発行 2018年5月

縄文時代から現代まで、カラーで296点もの作品が掲載されている本です。やきもの関連年表や各時代の主要窯場地図などの資料もあり、やきものの勉強にも最適です。

『名碗を観る』 751.1

林屋 晴三,小堀 宗実,千 宗屋／著 世界文化社／発行 2011年10月

数ある作品の中から国宝や重要文化財にもなっているものを含め22もの名碗を選定。臨場感あふれる写真に加え歴史的背景も添えられており、ひとつひとつの作品を丁寧に深掘しています。掛物、花入、釜、茶入、茶杓などの名品も多数収録されています。

『日本のやきもの鑑定入門』 751.1

矢部 良明／著 東京美術／発行 2010年8月

縄文土器から現代陶器まで、豊富な図版でやきものを紹介し、鑑定の対象となるよ

うな美術性の高い作品を中心に、その見どころ勘どころを解説しています。「時代はいつごろのものだろうか」「果たして本物だろうか」「買う価値があるだろうか」そういった考えが頭によぎった時の参考どうぞ。

『日本近現代陶芸史』 751.1

外館 和子／著 阿部出版／発行 2016年5月

日本の陶芸の歴史を本格的に学びたい方へ。明治から平成の時代までの約150年に及ぶ日本陶芸史や、近代巨匠から若手作家まで作家論がまとめられています。

『やきものの教科書』 751.1

陶工房編集部／編 誠文堂新光社／発行 2009年4月

器の種類やつくり方、全国のやきもの産地や用語集など、知っておきたい基礎知識がまとめられています。何が自分に合うのか、どんな器がほしいのか、お気に入りの一枚を見つけるのに適した本です。

2 陶芸をやってみよう

『やさしく作れるはじめての陶芸』 751 ウエ

上村 祥雄,坂本 明子／共著 日本文芸社／発行 2007年1月

陶芸の初心者を対象にした焼き物の入門書です。日常づかいの基本的陶器からちょっとした芸術作品まで、初めての人にもわかりやすいように、作り方の手順を多くの写真で詳しく解説していきます。

『今日からはじめるやさしい陶芸入門』 751

上村 祥雄／著 金園社／発行 2014年11月

粘土から作品ができるまでの基本の部分を、分かりやすい文章とふんだんに使われている写真で説明しています。自分の作品を作ってみる所まで楽しめるような初心者向けの一冊です。

『やきもの作りを楽しむ』 751

荒井 朋子／著 技術評論社／発行 2008年2月

うまい酒と肴のため、「自分が使いたい」器作りを追及する一冊。作って、使って、見て楽しむ陶芸作品が載っています。

『基礎からわかるはじめての陶芸 改定新版』 751

学研プラス／編 学研プラス／発行 2020年7月

土の練り方や道具の使い方、手びねりやロクロでの成形から絵付け、焼成まで陶芸のいろはを豊富な写真やイラストで解説した入門書。初心者が陥りやすい失敗例や上手な解決方法も載っており、これから陶芸を始めたい人向けの一冊です。

『焼き物質問箱』 751

和田 和也／著 誠文堂新光社／発行 2015年9月

季刊『陶工房』で連載されていた「焼き物雑学質問箱」が一冊の本になりました。

専門用語などの基礎知識や文化的背景、技法など陶芸に関する様々なジャンルの質問に答えています。

『やさしい陶芸絵付け鉄絵の描き方』 751 ヒコ

比護 武司／著 誠堂新光社／発行 2017年6月

鉄を主成分とした顔料で描く鉄絵。その鉄絵の色を塗る工程がカラー写真でわかりやすく解説されています。図案も掲載されているので初めて鉄絵に挑戦してみたい方にもおすすめです。

『やきものづくり、100の失敗』 751

『つくる陶磁郎』編集部／編 双葉社 2008年1月

陶芸の初心者はもちろん、熟練者も案外陥りやすい失敗や間違いを、陶芸家や陶芸教室の講師などが解決法を教えてくれています。陶芸づくりで何かに躓いた時、助けになるかもしれない一冊です。

『すべてがわかる！やきもの技法辞典』 751

『つくる陶磁郎』編集部／編 双葉社 2008年7月

知っているようで知らなかった技法や道具の基礎知識を五十音順の項目に並べています。陶芸家たちが独自に編み出した技法も紹介されており、焼き物作りの知識がある程度ある人でも新しい技法に出会えるかもしれません。

3 作品や陶芸家を調べてみよう

『角川日本陶磁大辞典』 R751.1

矢部 良明／著 角川書店／発行 2002年8月

陶技・陶芸・実用陶磁・骨董・古美術・考古学・原料・釉薬・茶陶などの約7300項目をカラー図版1300点とともに解説を施した陶磁陶芸の辞典です。

『陶芸事典』 R751

室伏 哲郎／著 日本美術出版／発行 1991年12月

やきものの種類や技法、日本・世界の窯業地・窯場、陶芸史、美術館、陶芸ギャラリーなどを網羅した総合陶芸事典です。日本・世界の代表作家合わせて約2000名、カラー作品約500点を含む約3000点もの写真・図版も掲載されています。

『原色陶器大辞典』 R751

加藤 唐九郎／編 淡交社／発行 1986年10月

昭和を代表する陶芸家の一人として知られる加藤唐九郎がまとめ上げた辞典です。出版からある程度時間が経過しているものの、総項目数は約1万にのぼり、写真・イラストもふんだんに使用されているので視覚的にも理解しやすい内容となっています。

『陶芸家150人』 751.1

阿部出版／発行 2020年10月

様々な立場の陶芸の専門家へのアンケートをもとに「現代日本を代表する陶芸家」を選定。「なぜ“陶芸”にこだわり、作品を作るのか?」「“陶芸”で、何を表現したいのか?」などの回答を、各作家に執筆いただいたコメントを編集して掲載されています。

『人気作家15人の陶芸技法』 751

陶工房編集部／編 誠文堂新光社／発行 2012年12月

プロの陶芸家はどのように作品を作り上げていくのか。人気陶芸家15名が培ってきた技法やコツ、自身の経験談などを公開しています。

『くらしのやきもの事典』 751.1

マイナビ／編著 マイナビ／発行 2015年1月

「見る」「使う」「買う」のキーワードで、全国各地の産地めぐりに役立つ情報から歴史・蘊蓄・扱い方の基本情報などを紹介しています。魯山人や陶陽などが作った、知っておきたい昭和の名品も載っています。

4 枚方市立図書館で取り扱っている陶芸に関する雑誌

『炎芸術』 阿部出版／発行 季刊

現代陶芸を中心に鑑賞、コレクションから作陶まで幅広い視点で紹介している専門誌です。

『陶遊』 エスプレス・メディア出版 隔月刊

陶芸以外にも同じ火を使うことが多いガラスアートも取り上げられている、趣味ライフを楽しむ情報誌です。

『陶工房』 誠文堂新光社／発行 2020年2月休刊

茶器、花器などの伝統的なものから、日常で使用できる食器や酒器まで、毎号さまざまな陶芸作品とその作り方を掲載。初心者でも挑戦できるような解説や、窯の焼成技術など中級者向けの連載記事も充実している雑誌です。

『つくる陶磁郎』 二葉社／発行 2009年11月休刊

「やきものづくりのいろはにほへと。自らつくって、使って、人とともに楽しみたい。あらゆる技法を、基本から学ぶ」をこの雑誌の主旨として、全くの初心者からプロの陶芸家までをも対象にした構成となっています。



お問い合わせ先

枚方市立御殿山図書館

〒573 - 1182

枚方市御殿山町 10-16

電話番号 050-7102 - 3119

FAX 番号 072 - 840 - 2141